

- クマによる人身被害事例から -

クマに出会わないためにできることや 出会ってしまった時の対処について

2026（令和8）年3月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

目次

01.

人身被害の事例 — 分析結果から —

→ いつ、どこで？どんな行動をしている時に被害が起きている？

02.

出会わないために — 人の生活圏 —

→ 被害者の行動から見える出会わないための方法は？

03.

出会わないために — クマの生息域 —

→ 被害者の行動から見える出会わないための方法は？

04.

出会ってしまった場合には

→ 出会ってしまった時に正しい対処方法と、してはいけない行動とは？

はじめに

近年、多くの地域でヒグマ・ツキノワグマ（以下「クマ」という。）が人の生活圏に侵入し、人身被害が増加しています。いつ、どこで、どのような行動をしている時にクマによる人身被害が起きているのか、人身被害発生状況を平常年（令和6年度）、大量出没年*（令和5、7年度）に分け、分析した結果からクマに出会わないための対策や、出会ってしまった時に何ができるのかを事例ごとに紹介します。*クマの大量出没が東北地方を中心に発生した年度



クマの生息域

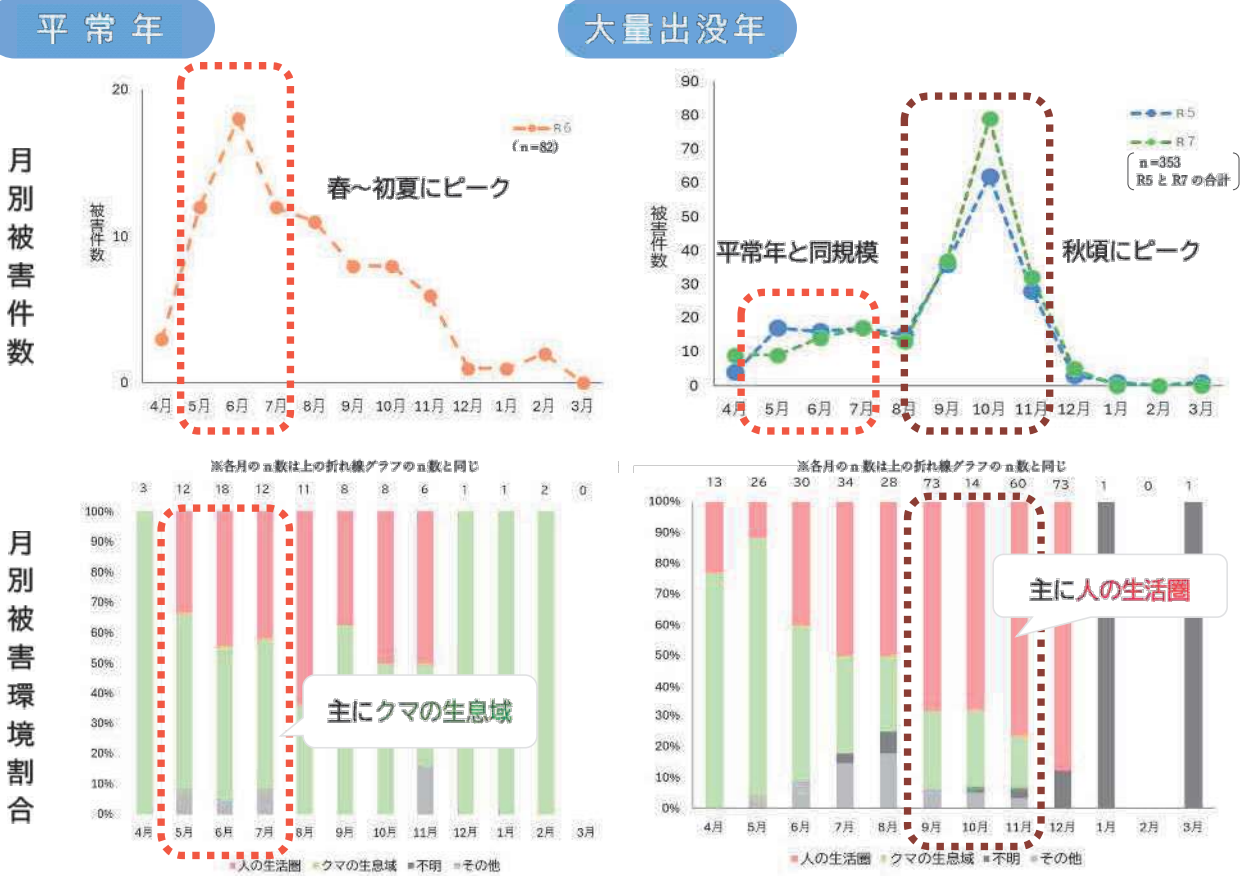
森林や河川敷等、山林部を含んでいます。

人の生活圏

本レポートでの、「人の生活圏」は、クマの生息地に接する中山間地域の集落等も含んだ市街地、人家周辺、道路、農地と、その周辺の人の生活環境になります。

01. 人身被害の事例 — 分析結果から —

環境省が収集した全国の人身被害データをもとに、発生状況を整理しました。



* 《環境の区分》人の生活圏：市街地、人家周辺、道路、農地 クマの生息域：森林、河川敷

上記より、2つのポイントが見えてきました。

- ★ POINT 1：平常年と大量出沒年ともに、春～初夏にかけてクマの生息域で被害が発生している。
- ★ POINT 2：大量出沒年の秋には、人の生活圏において高い割合で被害が発生している。

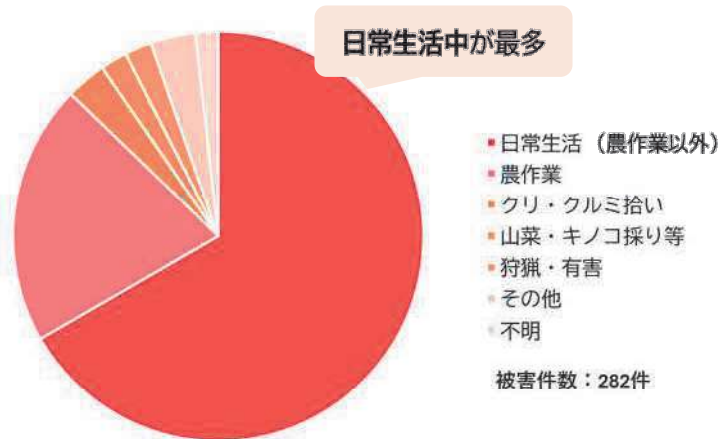
➡ 「人の生活圏」と「クマの生息域」の2つの視点で考えることが重要！

クマとの突発的な遭遇などは、適切な対策や行動をすることで防ぐことができます。出会ってしまった際の、状況は様々ではありますが、基本となる対処方法や行動は共通しております。

実際の事例も紹介しつつ、次からは、「クマの生息域」と「人の生活圏」それぞれの環境で発生した人身被害状況からみる、クマに出会わないためにできること・出会ってしまった時にできる対処法について紹介をします。

02. 出会わないために — 人の生活圏 —

人の生活圏（市街地・人家周辺・道路・農地）での被害について、被害者の行動を分類したところ、以下のような結果となりました。



散歩や自宅周辺での活動等の日常生活での被害が最多となっています。人の生活圏にクマが侵入して起きる事故については、事故に遭いやすい特定の行動があるわけではなく、誰もが事故に遭う可能性があります。人の生活圏内でクマに出会わないためには何ができるのか、被害防止の観点から、どのような対策や、行動が考えられるか、3つの項目に分け整理しました。

寄せ付けない

（人家周辺・農地）

●放任果樹等の管理

樹木伐採や果実の除去等で誘引物は適切に管理しましょう

●電気柵の設置

畑・果樹園等の周辺に設置し、クマの侵入を防止します。効果的な電線の間隔等設置のポイントをおさえること、草刈り等の管理も必要です

（人家周辺）

●生ゴミの管理の徹底

野外に生ゴミを含むゴミを放置しない等、管理を徹底しましょう

人の存在を知らせる

（農地）

●音がでるものを持ち歩く

ラジオ等で不意な遭遇を減らします

●複数人で行動する

一人していると案外音（気配）は出ません

●クラクションを鳴らす

人がいること、人が近づくことをクマに知らせます

（通学）

●音がでるものを持ち歩く

クマ鈴等を付けて登下校すると不意な遭遇を減らせます

出合いを避ける

（人家周辺・道路）

●クマの出没情報が出ている場合

クマに出会いやすい早朝夕方の時間帯★を避け、徒歩での外出を控えましょう

●クマの出没情報を調べる

最新情報を知り、クマが近くに出没していたら外出時に注意を払いましょう

（人家周辺・農地）

●草刈り・藪の刈払い

田畑や道路周辺の草刈りを行い、見通しを確保しましょう。クマから人が見える、人からクマが見える状況を作ることが重要です

★¹ 被害発生時間に傾向はある？（令和7年度人身被害状況より作成）

明け方や日の入り前後に被害が多く発生していることが分かりました。



— 人の生活圏で起きた被害事例の紹介 —

事例①：誘引物が招いた被害

● 被害状況：2025年 自宅敷地内にて 軽傷

車の陰から飛び出してきたクマに襲われました。敷地内にあった農作業で発生したモモの残渣に誘引されて侵入したと考えられました。

➡ 放棄果樹や農作物の残渣は、クマにとって魅力的な食物です。これらの除去を行い、人家周辺に寄せ付けないことで人身被害を抑制することができます。

事例②：ランニング中にクマと遭遇

● 被害状況：2025年 農地道路にて 頭部を負傷

ランニングしていたところ、藪の中から出てきた親子グマに襲われ負傷しました。

➡ 藪は、クマをはじめとする野生動物が身を潜めやすいです。見通しが悪い場所ではお互いの存在に気が付かずに両者が接近してしまい、被害が発生する要因となります。また、徒歩に比べて、速度が速いランニングは、不意にクマに接近してしまい出会い頭の遭遇リスクが高くなる可能性が考えられます。

見通しの良いコースを選ぶ、複数人で走る、大きな音を立てながら走るなどの対策をとり、万が一、クマと遭遇してしまった場合は、後述の「正しい対処法」の中で、できる限りの対処を行きましょう。

事例③：事前情報があったがクマと遭遇

● 被害状況：2025年 山林際の道路にて

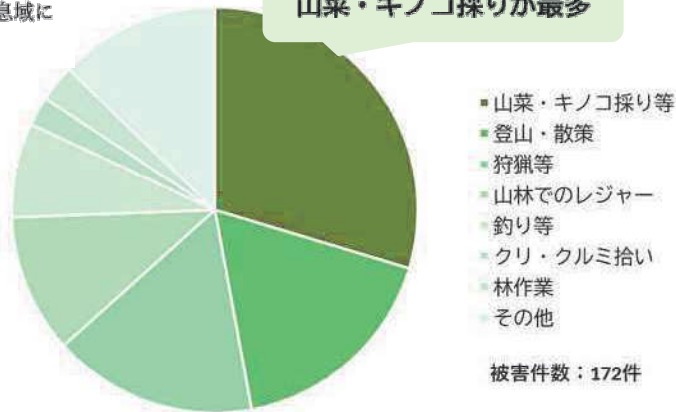
被害者は朝6時頃から散歩に出かけ、クマに襲われました。事前に近隣の知人から「クマが出ているので散歩は危ない」と声掛けがありましたが、散歩を続けていました。

➡ クマと出会う可能性が大きいと考えられる場合は、外出を控える、散歩コースを変更するなど、クマと出会わないための対策を行きましょう。

03. 出会わないために — クマの生息域 —

クマの生息域（森林、河川敷★²）での被害について、被害者の行動を分類したところ、以下のような結果になりました。

★² 便宜的に河川敷はクマの生息域に分類しています



山での山菜・キノコ採り中に、被害にあった件数が最も多く、次いで登山・散策中、狩猟等や山林でのレジャー中に被害に遭うことが多い結果となりました。クマの生息域内で、被害防止の観点から、どのような対策や、行動が考えられるのか、行動別にそれぞれ紹介します。

山菜・キノコ採り等

- クマの行動が活発な明け方・日の入り前後に行動しない
- ラジオや鈴を持ち歩く
鈴は立ち止まっているときには音が鳴らない点に注意しましょう
- 周囲の状況に気を配る
見通しの悪い場所や、音が響きにくい場所では、意識して大きな音や声を出しましょう。クマは木登りが得意なため、頭上にも気を配りましょう
- 複数人で行動する
採取に夢中になり同行者と距離を開けないよう気を付けましょう。距離が開くと単独で行動しているのと同じ状況になります
- 出没情報を確認する（自治体情報等）
直近の山菜・キノコ採りを行う場所の目撃・出没情報を確認し情報があれば、近づかない

登山や散策・山でのレジャー

- ラジオや鈴を持ち歩く
雨天時にレインカバーに圧されて鈴が鳴らなかったり、川のそばや雨等の水音で鈴などの音が周辺に響かない点に注意しましょう
- 食べ物の匂いに注意する
食べ物の匂いがもれないように、密閉容器に保管したり、残飯やごみを放置しないよう注意しましょう。またテントの中に匂いのある食べ物があると、クマを誘引する可能性があります。食べ物は堅牢な場所（食料保管庫、車等）に保管しましょう
- 見通しの悪い場所は慎重に移動する
トレイルランニング等で見通しの悪い場所を通過する際は、速度に注意し、急な遭遇を避けるように慎重に行動しましょう

- クマと思われる痕跡（フン・足痕・爪痕等）を見つけた場合は、すぐに静かに立ち去る。
近くにクマがいる可能性があります。滞在し続けずに、静かにその場から離れましょう。

★注意！ キャンプ場で気を付けよう！

キャンプ場がクマの生息域に位置する場合は、周囲に人がいてもクマと遭遇する可能性は人の生活圏と比べ高くなります。十分な対策を行った上でキャンプを楽しみましょう。

① 見通しのいい場所を選ぶ

近くに車両を止められる場所や、緊急避難先（管理棟）がある場所を選ぶことも有効です。

② キャンプ場や自治体・都道府県の出没情報の確認

近年都道府県や地方自治体の他、キャンプ場の SNS や HP でもクマの出没情報が多く発信されています。

③ クマ撃退スプレーを携帯しましょう

不意の遭遇に備え、クマ撃退スプレーを準備携帯しましょう。最近では通販で購入も可能です。カプサイシン濃度の高いものなど、効果の高い商品を選びましょう。

④ 携帯式電気柵やフードコンテナ（密閉容器）を使用しましょう

北海道では、携帯式電気柵やフードコンテナのレンタルをしている施設もあります。積極的にこれらを使用することで、クマを誘引するリスクを減らすことができます。



図 携帯式電気柵（左）とフードコンテナ（右）

・引用：環境省自然環境局知床国立公園 知床半島先端部地区利用の心得 web サイト SHIRECOCO
(<https://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear02/>)

— クマの生息域で起きた被害事 の紹介 —

事例：山菜・キノコ採りでの被害

* 被害状況：2025年 山林にて 重傷

山菜を採り終え下山しようとしたところ、木の上から子グマが一頭落下しました。その子グマに襲われ、重症を負ってしまいました。

➡ クマは木登りが得意です。森林内を歩く際は、頭上にもクマがいないか確認し、左右だけではなく上方向にも目を配って歩きましょう。

04. 出会ってしまった場合には…

○ 正しい対処方法

- 慌てず、ゆっくり移動する
- クマ撃退スプレーを使用する
- 人の生活圏では電柱・車等、クマと人との間に遮蔽物を挟むように移動する
- 近くの車や、民家に助けを求める

★³襲われそうになった場合は、防御姿勢をとる

× してはいけないこと

- クマに対して大きな声や音を出して威嚇する
- 背中を見せ、走り出す
- クマに対して物を投げたりして、刺激を与える
- リュックやかばんを置いて逃げる
食べ物が入っていた場合、意図しない餌付け行為につながります

★³防御姿勢について

(防御姿勢はあくまで最終手段です。上記の正しい対処方法を実施した上でもクマが襲ってきた場合に対処する方法ですので、ご注意ください。)

うつ伏せになり、顔や胸、腹部を守りましょう。後頭部と首の後ろは手指を組み合わせて攻撃を防ぎます。手や、腕、背中が攻撃を受けますが、**急所を守ることで致命傷を防ぐことが重要です。**

特に、人の生活圏に出没したクマはパニックになっていることもあるため、屋内や車内の安全な場所に退避することが望ましいですが、**出会い頭の遭遇により、攻撃を受けそうになった場合は、フードや帽子等で頭部を守りつつ、防御姿勢をとりましょう。**

*ヘルメットやリュック（登山バック）があることで、背中や頭部へのダメージを軽減することができます。(引用：環境省、クマ類の保護及び管理に関するレポート、2025年3月、

https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/r06report_kuma.pdf)

クマによる受傷部位の
77% は頭部



防御姿勢の取り方

★ クマ撃退スプレーは適切に使用しましょう

クマ撃退スプレーを実際に使用するのはクマが目の前にいる状況です。冷静な行動や判断をすることは非常に難しいと考えられます。クマ撃退スプレーの構造や射程、使用方法は事前に確認・練習しておく、いざ使用となった場合に、手間取らないようにスプレーの携帯方法（携帯位置、取り出し方法等）を決めておくなど、適切に使用できるような工夫をすることが重要です。

また、クマは威嚇のための突進(ブラフチャージ)と、攻撃のための突進を行うことが知られています。クマ撃退スプレーは噴射距離内まで十分にクマを引き付けてから噴射をすることにより効果が得られるため、クマの行動をしっかりと確認し、発射準備を行った上で、発射タイミングを測ることが重要です。

■ 参考資料

- 自治体やビジターセンター、キャンプ場等が発信する情報
お住まいの自治体や、ビジターセンター、キャンプ場等が発信する情報を確認しましょう。
(例)
 - ・ 環境省 <https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>
 - ・ 秋田県 <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/23295>

- クマについて正しく理解する
 - ・ 環境省(クマ類の生態について(参考資料2))
<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/kuma-habitat.pdf>
 - ・ 秋田県(クマについてよくあるご意見・ご質問)
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/85123>

- クマの痕跡画像
クマの痕跡の種類や形、色は様々ありますが、フン・足跡・爪痕の一例を紹介します。
 - ・ フン



- ・ 足跡



- ・ 爪痕



- クマによる人身被害事例から -

クマに出会わないためにできることや

出会ってしまった時の対処について

2026（令和8）年3月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1丁目2番2号

電話：03(5521)8285

業務請負者 一般財団法人 自然環境研究センター

〒130-8606 東京都墨田区江東橋3丁目3番7号

電話：03(6659)6310（代表）